

Campus Today



社会で活躍できる歯科医療人をめざして



矢ヶ崎理事長から激励を受ける新生たち

初心を忘れず勉学に励むことを誓う 松本歯科大学歯学部・大学院／衛生学院入学式

松本歯科大学歯学部、大学院歯学独立研究科 衛生学院の合同入学式が、4月4日（木）、本館7階において行われた。歯学部生77人（編入生含む）、大学院生13人、衛生学院生84人の新生は、希望を胸に新生活のスタートを切った。

総勢174人の新生が出席し、信 入学式で矢ヶ崎 雅理事長は、「校歌頼まれ、社会で活躍できる歯科医療人」と建学の理念は、松本歯科大学の「志」をめざして学んでいく決意を新たにしようと述べた。式典終了後は1階学生ラウンジで、式典終了後は1階学生ラウンジで、必須のことが書かれています」と述べ、新生歓迎会があり、新生と保護者がリラックスした表情で参加し、教職員らと和やかに歓談した。またこの日は、クラブ説明会も開かれた。

川原一祐学長は「皆さんは人から信頼される仕事に就く。私から提案することはただ一つ、これからの学生生活では『うそをつかないこと』をお願いしたい」と簡潔に言葉をかけ、激励した。

学生の誓いの言葉は、歯学部は山田万葉さん、大学院は中村葵さん、衛生学院は小山愛姫さんの順に、それぞれが仲間を代表して述べた。歯学部新生の代表を務めた山田さんは、壇上の宇田川信之歯学部長に向かって「松本歯科大学の誇りを持ち、本学の建学の理念をわきまえて、初心を忘れることなく、歯科医師になる目標に向かってさらなる向上心をもって勉学に励むことを誓います」と決意表明をした。

式典には新生の保護者も大勢出席し、わが子の晴れ姿を見つめていた。新生歓迎会では、新生や保護者、法人役員や教職員らが一堂に会して語り合い、立食形式で本学内にあるレストラン「雷鳥」と中国料理「Spartan」



誓いの言葉を述べる歯学部代表の山田さん

の料理を楽しんだ。

矢ヶ崎理事長はあらためて「皆さんを私の娘や息子のように大歓迎します。保護者のみなさんへご心配でしょうが、われわれにお任せください。立派な人間に育てます」とあいさつした。歯学部生を代表して歓迎のあいさつをした第6学年の三野耀執君は「6年間はあっという間。挑戦する気持ちを持ち続け、目の前のことに集中し、全力で挑戦していきましょう。失敗より怖いことは現状を維持して挑戦しないこと。松本歯科大学には皆さんの挑戦をサポートしてくれる先生方や先輩が大勢いる」とさらなる奮起を促した。

衛生学院を代表した第3学年の大澤日向子さんは「社会で活躍別賞」ほか各賞に選ばれた在学22人が、一人ひとり呼名され、矢ヶ崎 雅理事長より表彰状を受け取った。

在学22人が 栄誉の受賞 歯学部学生表彰授与式

2023年度歯学部学生表彰式が4月4日（木）、学生ラウンジで開かれた新生歓迎会の中で行われた。新生や新入生のご父母、来賓、教職員など大勢が祝福する中、「矢ヶ崎 康特

各賞の受賞者

◆矢ヶ崎 康特別賞

- 三野 耀執 (第5学年)
- 青木 萌音 (第4学年)
- 奥田 葉月 (第3学年)
- 木ノ島 旺 (第2学年)
- 藤井 明都 (第1学年)

◆スポーツ賞

- 伊藤 公平 (第5学年)
- 第56回全日本歯科学学生体育連盟正評議員
- 2023年度体育連盟協議会委員
- 第34回体育祭実行委員長

◆活動賞

- 清水 瑠夏 (第2学年)
- 伊藤 公平 (第5学年)
- 第35回松壽祭実行委員長
- 木ノ島 旺 (第2学年)
- 第35回松壽祭実行委員長



矢ヶ崎 康賞を受賞した郭さん、朴君、福島さん (左から)



校歌で歓迎する上級生たち

できる歯科衛生士となっていくよう、共に有意義な学生生活を送っていきましょう」と呼びかけた。

歓迎会は、蒼穹会顧問で会田養鶏会長の中島学さんが指名を受けて乾杯のあいさつに立ち「勉学の道は必ずしも容易ではないが、他では求めることができない素晴らしい教育環境の中で、精いっぱい頑張らなければならぬ。皆さんが目的を達成されることを祈念します」と述べ、開宴となった。

◆◆クラブ説明◆◆

歯学部と衛生学院の新生への部活説明会が4月4日（木）、新生歓迎会後に開かれ、各部の代表者が順次特色を説明し、入部を呼び掛けた。

本学の部活は、体育系は愛好会を含め15団体、文化系は同好会を含め8団体ある。学内の全部活の統括組織の元委員長で、第6学年の伊藤公平君は「自分に合う部活があったらぜひ入ってほしい」と呼び掛けていた。

ビールは1日2本! 国が定めた飲酒推奨量の衝撃

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事 飯島勲
特命教授

今月号は「プレジデント」5月3日号「リーダーの掟 飯島勲より、厚生労働省による「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」についての記事を要約して紹介します。

紅麹の成分入りサプリメントの健康被害が拡大している。連日、死者や入院者の状況が報じられるほか、問題のサプリメント以外で紅麹を使用した食品への風評被害も懸念されている。そもそも紅麹は、沖縄や台湾などの伝統料理に使われていた発酵食品で、現地では長寿の秘訣と伝えられてきた。そこにコレステロールを抑制する成分が見つかった。人々の健康意識が高まる中で、サプリメントとして加工され、一般の消費者が何気なく摂取したことで、悲劇が起きてしまった。コロナ禍以降、さらに高まる健康ブームの影響といえなくもない。

数5%のビールの場合、500mlのロング缶1本の純アルコール量がちょうど20gになる計算だ。男性なら1日ロング缶2本までが許容範囲ということになる。同様に、酎ハイなら350ml缶2本まで、日本酒は2合弱、ワインはグラスで3〜4杯。ウイスキーはシングルで1杯弱まで。



飲めるなんて」と驚かれたが、勧められたお酒を断るほうが失礼だろう。海外にも飲酒に関するガイドラインがあり、純アルコール量を基準とする主な国では、韓国が日本と同じ男性が1日40g(女性は20g)、ロシアが30g(女性は20g)、米国は28g(女性は14g)となっている。体格がよく、酒が強い人の方が多いイギリスの米国の意外と少ない。度数が高い蒸留酒ウォッカの産地であるロシアが日本より少ない基準を守るのには難しいのではないか。

日本のガイドラインでは量だけでなく、飲み方についても細かい指示が書かれている。あらかじめ量を決めて飲む、飲酒前または飲酒中に食事を摂る、飲酒の合間に水を飲む、週に1回飲酒しない日(休肝日)を設ける、といった内容だ。さらに、飲み続けると依存症になるリスクや、不眠解消のための飲酒で睡眠リズムを乱すリスク、服薬後の飲酒による副作用のリスク、飲酒後の運動・入浴で血圧の変動が強まり心筋梗塞を引き起こすリスクなど、飲酒によるさまざまなリスクも説明されている。

「この先生は痛いことを強制しない」と信頼してくれているから、きわめて容易に死んでしまう。この時代には「小児歯科治療は大変な手間がかかるもので採算医療の典型」と考えられていて、落合先生の「若葉歯科」(まだ小児歯科の標榜は認められていなかった)を始めとする小児歯科の開業医は高額の自費診療のみで営業していた。民医連加盟の「差額徴収はしない」代々木病院で、筆者が保険診療で小児歯科に取り組んでいることを、多くの先輩たちが「経営難で潰れるぞ」と心配してくださったほどであった。

この量を「少ない」と感じるか「まあまあ」と感じるかは個人差があると思う。私は付き合いななどで必要があるとき以外は酒を飲むことはないが、それでも日本酒2合弱というのには少ないのではないかと感じる。最近、ベトナムを訪問した際に、前国家主席を招いた会合に呼ばれ、勧められるままに紹興酒をいただいたのだが、気が付いたら5杯飲んでしまった。紹興酒の度数は日本酒と同じくらいだから、あの日はガイドラインをオーバーしていると思う。ただ、同席していた大使館員からは、「飯島さん、前国家主席の前で5杯も

め、本学の歯科分野の魅力を伝えるべく、学生たちは2カ国語で大学の紹介ビデオを制作し、今回のオンライン交流会を実施しました。交流会では、宇田川信之歯学部長から昨年の学生派遣に対する感謝の言葉が述べられ、両大学の学生たちは中国での活動を笑顔で振り返りました。また、河北医科大学の李 増寧書記か

らば、友好交流・人材育成への協力に対する感謝の意が示され、今後の交流の強化が確認されました。その後、オンライン臨床実習が行われました。本学の臨床実習風景や設備に関する学生たちが作成したビデオが紹介され、学生たちは熱心に説明しました。河北医科大学からの臨床映像では新たな技術や活動が紹

介され、本学の学生たちは興味津々でした。自由交流の時間では、学生同士が臨床実習と試験勉強に追われる日々の苦勞を共有し、リフレッシュ方法についても話し合いました。この貴重な交流を通じて、両校の友好関係が一層強化され、今後の交流がますます深まることを期待されます。(総合歯科医学研究所 准教授 楊 豊)

止された。実は禁酒法時代には酒の消費量は増加したのだという。法による飲酒の制限は健康被害の防止には全く効果がなかったうえ、ギャングの勢力拡大で治安も悪化した。これは極端な例かもしれないが、飲酒に関する規制は簡単ではないことがわかる。

現代でこそ、ペットのイヌやネコでも飼いにブラッシングしてもらおうようになったが、当時は乳幼児の口腔清掃を親の手で行うことは社会常識ではなかった。介助歯磨きの方法も未確立で、後に普及した、あぐらを組んだ母親の足の上に幼児の頭を乗せて後方から口の中を覗き込むようにして歯ブラシを使う方法も、筆者のチームの歯科衛生士が開発したものだったのだ。「ムシ菌の洪水との戦い」でなによりも威力を発揮したのは、恩師の落合靖一先生直伝のリコールシステムであった。日常生活での口腔ケアが定着していれば、以前のような齲蝕の多発は確実に抑制される。歯科衛生士による口腔内チェックで要処置箇所が発見されなければ、そのままフッ化物塗布やシーラントなどの予防処置と保健指導に移行できる。

河北医科大学と オンライン臨床実習を開催 2カ国語で病院を紹介



中国語で挨拶をする蔡さん

2024年3月14日(木)本学と河北医科大学は4回目のオンライン臨床実習を実施しました。この日、本学からは第5学年生8人、河北医科大学からは5年生5人が参加し、双方の大病院の医療体制や実習内容について情報交換が行われました。両校は2015年から学生間の相互派遣を行っており、コロナの影響で2020年より中断されてきました。しかし昨年8月に再開され、本学から第5学年の6名の学生が河北医科大学を訪れて4年ぶりに第6回臨床実習プログラムが実施されました。中国での臨床実習を通じて、本学の学生たちは異文化理解や歯科医療の実態を深く知るとともに、専門性を向上させる貴重な機会となりました。

しかし、河北医科大学からの学生派遣が実現できなかったため、本学の歯科分野の魅力を伝えるべく、学生たちは2カ国語で大学の紹介ビデオを制作し、今回のオンライン交流会を実施しました。

その後、オンライン臨床実習が行われました。本学の臨床実習風景や設備に関する学生たちが作成したビデオが紹介され、学生たちは熱心に説明しました。河北医科大学からの臨床映像では新たな技術や活動が紹介され、友好交流・人材育成への協力に対する感謝の意が示され、今後の交流の強化が確認されました。

この貴重な交流を通じて、両校の友好関係が一層強化され、今後の交流がますます深まることを期待されます。

サポーター隊の活動は、新生活への緊張や不安を抱える新生や保護者に好評で、多くの学生が「入寮してからもうすぐお祝いします」と声を掛けられていた。

サポーター隊メンバーの一人、第2学年の関口慶慈君は「新生だっただけに自分もサポーターに手伝わってもらってうれしかった。今度は自分が、新生たちの役に立ちたい」と話していた。

「この先生は痛いことを強制しない」と信頼してくれているから、きわめて容易に死んでしまう。この時代には「小児歯科治療は大変な手間がかかるもので採算医療の典型」と考えられていて、落合先生の「若葉歯科」(まだ小児歯科の標榜は認められていなかった)を始めとする小児歯科の開業医は高額の自費診療のみで営業していた。民医連加盟の「差額徴収はしない」代々木病院で、筆者が保険診療で小児歯科に取り組んでいることを、多くの先輩たちが「経営難で潰れるぞ」と心配してくださったほどであった。

新入生サポート隊が活躍 2年生有志が新入生の入寮を手伝う

第2学年有志14人は3月30日(土)と31日(日)の2日間、「新入生サポート隊」を結成し、学生寮「キャンパスイン」に入寮する新入生を支援した。学生たちは、キャンパスインのエント

ランスに専用窓口を設けて、力を入れる引越作業から細かな生活相談まで、幅広く手厚くサポートした。

班に分かれて活動した。学生たちは、寮の敷地に新入生の家族の車が入ってくると素早く駆け寄り、積極的に声をかけて入寮を歓迎すると、荷下ろし作業がしやすい場所まで車を誘導、スムーズな連携で、新生活に必要な荷物の搬入を支援した。それぞれの部屋に運び終わると、部屋の設備やごみステーションの利用方法なども丁寧に説明し、

サポーター隊は、車両誘導班、荷物運搬班、部屋の案内班の3



荷物搬入を手伝うサポーター隊

60年前の歯科医療(15)

筆者らの取り組みの実際は「歯界展望」1972年6月号の特集「う蝕予防?新しい作戦を求めて」に「わたしたちのむし菌戦争」チームワークで早期健康管理を??」を見ていただきたい。

リコールシステムを軸とした歯科的健康管理を開始してから10年目に外来受診した小児臨床統計を日本小児歯科学会で報告した。過半数が要処置齲蝕ゼロであった。しかし、「ムシ菌のない子どもが歯医者に来るはずがない」などと信用してくれな

創立者の「視点」



大学誌編集主任
特任教授 笠原 浩

1960年代の東京都心の病院歯科で筆者が当時の「ムシ菌の洪水」と悪戦苦闘を続けていた状況を、数回に分けて述べてきた。萌出したばかりの乳歯がたちまちのうちに重症ムシ菌になってしまふような状況の中で、修復治療は「サイの河原の石積み」に過ぎないことに気付き、「子どもの歯を守る会」を通じてのホームケアの定着と口腔衛生の啓蒙に努めた結果も、次第に目に見えてくるようになった。

現代でこそ、ペットのイヌやネコでも飼いにブラッシングしてもらおうようになったが、当時は乳幼児の口腔清掃を親の手で行うことは社会常識ではなかった。介助歯磨きの方法も未確立で、後に普及した、あぐらを組んだ母親の足の上に幼児の頭を乗せて後方から口の中を覗き込むようにして歯ブラシを使う方法も、筆者のチームの歯科衛生士が開発したものだったのだ。

筆者らの取り組みの実際は「歯界展望」1972年6月号の特集「う蝕予防?新しい作戦を求めて」に「わたしたちのむし菌戦争」チームワークで早期健康管理を??」を見ていただきたい。

世界選手権に向け、マウスピースを新調 ベンチプレスのアジア記録保持者・鈴木佑輔さん



鷹股特任教授から口腔内の状態の診察を受ける鈴木さん

パワーリフティング競技の一種、ベンチプレスの元世界王者で、83kg級日本・アジア記録保持者の鈴木佑輔さん(39)は、松本市で4月1日(月)、本学病院特別専門外来を訪れ、鷹股哲也特任教授を受診し、スポーツマウスピースを製作した。

スポーツ歯科が専門で、県スポーツデンティスト協議会会長でもある本学病院特別専門外来の鷹股哲也特任教授が、鈴木さんの口腔内の状態をチェックしながら、歯や歯列、かみ合わせなどを調べるための型を取り、製作に必要な情報を丁寧に聞き取っていった。

かみ合わせは、姿勢や動作、体のバランスなどにも大きく影響することが知られ、正しいかみ合わせを再現しやすくなるマウスピースを使用するスポーツ選手は、競技や種目を問わず増えている。鈴木さんもマウスピース使用者で、5月下旬から米国で開催されるベンチプレス世

界選手権出場に向けて競技力をより安定的に向上させるために新調することにしたという。

鷹股特任教授は、診察台に横たわった姿勢だけでなく、診察台を降りて競技時の姿勢でもかみ合わせを確認するなど、「気分

「低ホスファターゼ症の診断と治療」について講演

小児歯科学講座・大須賀直人教授

「低ホスファターゼ症(HPP) Webセミナー in 長野」が3月8日(金)、松本市のホテルブエナビスタ・グランデにおいてアレキシシオンファミリー合

大須賀教授はセミナーでHPPの概要とHPPである自身の症例について説明した。けれどもの既往から小児科で血清ALPの低値を指摘され、下顎前歯部の動揺を主訴に来院して母親がHPPであると診断され、酵素補充療法を行っていたという患児の症例について説明した。



講演する大須賀教授

分は悪くないですか」と鈴木さんに声をかけながら丁寧に対応していた。同協議会のメンバーもサポートした。

鈴木さんは、自身のYouTubeチャンネルで練習の様子などを公開していて、マウスピースについても理解を深めてもらおうと、この日の様子も一部始終を撮影。「マウスピースをかみ合わせのガイドとして使い、練習の質を上げ、本番では持っている力を全て出せるようにしたい」と話していた。

微生物学講座・吉田明弘教授が

モハメドV世大学歯学部で学位審査

2024年2月22日、筆者はモロッコ王国の首都ラバトにある国立モハメドV世大学歯学部において、博士課程の学位審査に従事してきた。学位申請者はモハメドV世大学歯学部大学院にて研究を行ってこられたS.R.先生(個人情報保護のためイニシャル表記とする)であった。学位のテーマは、「侵襲性歯周炎の診断マーカーとなる微生物の探索」であった。

まず、学位申請者によるこれまでの研究内容のプレゼンテーションが約40分行われた。次に、プレゼンテーションと事前作成されたテシス論文を基に、質疑応答が行われた。こ



学位論文について審議する吉田教授(左)

まずは日本の学位審査と同じであるが、その内容は日本のそれと比べ物にならないほど濃密なものであった。主査・副査1人あたり、論文の疑問点等について約30分の質疑応答が行われた。

学位取得者のS.R.先生

試験と異なり、学位の価値は学位を取得する者の研究に対する真摯さによって決まるものだと思う。つまり、研究の深さが学位の価値を決めると考える。筆者も、このような価値ある学位の審査のため、日本から参加させていただき本心に心満たされる気持ちになった。

4月1日(月)、松本歯科大学病院臨床研修歯科医の開始式が挙行された。はじめに、宇田川信之歯学部部長ならびに樋口大輔病院長より「1名1名が病院歯科医師としての自覚をもって、本病院において積極的に研修に励むよう期待している」との言葉

歯科医師としての自覚をもって研修に励む

松本歯科大学病院臨床研修歯科医研修開始

より、病院長代行として2024年度採用となった本学病院研修歯科医23名(プログラムI 18名、プログラムII 5名)に対して臨床研修許可証を授与した。本年度は、初めての聴覚障がい者の歯科医師である杉野凛太郎先生の臨床研修開始初日ということもあり、NHKをはじめとして取材もあり、その一部

新入生歓迎夕食会

第2学年生と新入生が 食事やゲームで交流

歯学部生による恒例の新入生歓迎企画「新入生歓迎夕食会」が4月5日(金)、学生食堂で開かれた。新1年生と新編入生約80人が参加し、特別メニューの夕食を味わいながらビンゴゲームで盛り上がり、交流を楽しんだ。

新生活の緊張を和らげてもらいたい、新たな仲間づくりの機会も提供できたらと、毎年第2学年の有志が実行委員会をつくって開いている。会食に先立ち第1学年主任で生物学の安藤宏教授があいさつし、かつて成績優秀だった学生が歯科医師になった途端に目標を見失ってしまった逸話を引用し「学生生活では、自分が目指す歯科医師像も自分の中に育てていってほしい」と



先輩と話が盛り上がる新入生たち

はニュース映像記事(https://www3.nhk.or.jp/news/nngano/20240401/1010030332.html)や新聞記事(4月22日日本経済新聞)として掲載され



臨床研修許可証を授与する音琴委員長(左)

研修歯科医は、3日間のオリエンテーション後、10日間の初期研修におけるローテーション研修、基礎技術研修ならびに協力型研修施設のプレゼンテーションを行った。その後管理診療科希望を尊重し、研修管理委員会にて管理診療科を決定した。今年度も一昨年度から始まった新しい歯科医師臨床研修制度の下、研修を行っていく予定である。本年度もさらに校友の先生方の温かいご支援を賜れば幸いです。

(研修管理委員会委員長 音琴淳)

Alumni News

松本歯科大学校友会

「19期生」同窓会を開催

15年ぶりの再会に話は尽きず

会は、苦楽を共にした学生時代の気持ちに瞬時に戻ることができました。各地でのそれぞれの生活の様子や日々の臨床の話、懐かしい母校の思い出など、話は尽きず、2時間で別れを惜しんで散会いたしました。

今回もお忙しい中、同窓会を開催して下さった幹事の方々へ感謝申し上げます。人生の後半に入った同級生たちの今後の人生に幸多からんことを祈りつつ、次回は、15年後とかではなく、できれば5年後ぐらいに集まりたいと思っております。

(19期生 露葉良道)

2024年3月17日(日)、私たち第19期生の同窓会が新大阪の大阪コロナホテルで開催されました。1996年3月に卒業して以来、今回15年ぶり2回目の同窓会には同級生のおよそ半分にあたる約60人が出席しました。

19期生を代表して西宮市で開業されている梓学先生の開会と乾杯の挨拶で会が賑やかに始まりました。白髪が増え、体形が変わり、最初はお互いに誰れが分からなかった友もいました。が、久しぶりに会う旧友との再



15年ぶりに顔を合わせた19期生

4期生の副島先生と魚住先生が寄付 本学の教育活動の充実を祈願して

本学4期生で、歯科医療を通して近畿地方の医療や福祉の向上にも尽力している副島之彦先生と魚住智子先生が3月29日(金)、本学を訪れた。矢ヶ崎雅理事長に、学生時代のさまざまなサポートに対する感謝をあらためて伝え、それぞれの事業収益から本学の教育活動の一層の充実を願う寄付をされた。



魚住先生(左)と副島先生(中)

副島先生は卒業後、大阪府で小児歯科・矯正スマイルプラザを開き、本学大学院で博士号も取得しキャリアを積んだ。現在は、小児科医のご子息が営むクリニックと、スタッフや地域住民の子育て支援を目指して始めた病児保育園など5施設で構成する医之和会グループの理事長を務めている。来春には、英語保育園「YUKIインターナショナルプレスクール」も新規開園させ、グループに加える予定だ。

魚住先生の歯学部生時代は、歯科医師を目指す女性はまだ少なく、同期の女子学生は1割に深く感謝していた。

後も研さんを続け、2008年からは本学大学院で博士号を取得した。その一方で医療法人も立ち上げ、歯科医療人としてだけでなく経営者としても力を発揮、地域に貢献している。現在は医療法人うおずみ歯科診療所理事長として、大阪府と奈良県で診療所を運営している。

両先生は「松本歯科大で仕事の基礎を学ぶことができたので今の自分がある」と述べた。矢ヶ崎雅理事長は「皆さんの素晴らしい活躍は後輩たちの誇りです」と称え、ご厚志に深く感謝していた。

大学院セミナー 血管老化の仕組みを探る RANKLの発見、その研究の現状と未来

第424回大学院セミナーが2月20日(火)、信州大学医学部分子病態学講座教授の沢村達也先生およびオリエンタル酵母工業(株)バイオ事業本部の保田尚孝先生をお迎えして開催された。

「血管老化のしくみを探る」と題して講演した沢村先生は、悪玉コレステロールである酸化LDLの血管内皮細胞上の受容体LOX1の同定に成功し、動脈硬化における「酸化LDL-内皮障害仮説」を動物レベルで

証明した。さらに動脈硬化だけでなく、その後の臓器・血管障害においてもLOX1の重要性を示すことができた。また、独自の変性LDL(酸化LDL)を含む「活性測定系を開発し、これを疫学研究に用いることにより、変性LDL活性が心血管病の発症リスクであることをヒトで明らかにした。そして、ヒト型LOX1抗体が心筋梗塞治療に応用できる可能性を示した。さらに、LOX1遺伝子欠損マウスは、破骨細胞分化が亢進し、



保田先生(左)と沢村先生

骨量が減少すること知見も紹介された。

保田先生は「RANKL」の発見、その研究の現状と未来」をテーマに講演した。保田先生は、雪印乳業(株)生物科学研究所時代、1997年に破骨細胞分化因子RANKL (receptor activator of NF-κ B ligand) を発見した。RANKLの発見は、破骨細胞の分化・活性化調節メカニズムの解明、骨代謝と免疫学をつなぐ研究領域(骨免疫学)の開拓、抗ヒトRANKL中和抗体(デノスマブ)の臨床応用など大きなインパクトをもたらした。研究用試薬としてのRANKLとRANKL中和抗体は、骨量減少症モデルの構築や破骨細胞抑制作用メカニズムの解明に貢献してきた。さらに、RANKL研究の注目すべき知見として、RANKL抗体のがん免疫を増強するエビデンスを紹介された。

破骨細胞分化因子RANKL (receptor activator of NF-κ B ligand) を発見した。RANKLの発見は、破骨細胞の分化・活性化調節メカニズムの解明、骨代謝と免疫学をつなぐ研究領域(骨免疫学)の開拓、抗ヒトRANKL中和抗体(デノスマブ)の臨床応用など大きなインパクトをもたらした。研究用試薬としてのRANKLとRANKL中和抗体は、骨量減少症モデルの構築や破骨細胞抑制作用メカニズムの解明に貢献してきた。さらに、RANKL研究の注目すべき知見として、RANKL抗体のがん免疫を増強するエビデンスを紹介された。

(歯学部長 生化学講座教授 宇田川信之)

人事異動

- (退職(自己都合)) 3月31日付
- 鮎島 弘之 (主任技師 産科地域連携科)
 - 森山 敬太 (講師 産科小児歯科学講座)
 - 小野 美華 (臨床検査技師 産科)
 - 北澤 桃子 (助手 産科)
- (任期満了) 3月31日付
- 富士 安奈 (助教 産科)
- (契約満了) 3月31日付
- 研修歯科医25名(氏名・所属は省略)
 - 中島 靖子 (事務局 産科)
 - 横山 咲恵 (記録係)
- (採用) 4月1日付
- 内田 啓一 (特任教授)
 - 鮎島 弘之 (特任教授)
 - 増田 裕次 (特任教授)
 - 森 啓 (特任教授)
- (採用(再任)) 4月1日付
- 奥村 雅代 (講師 産科)
 - 西田 大輔 (助教 産科)
 - 中村 卓 (助教 産科)
 - 中村 圭吾 (助教 産科)
 - 宮國 茜 (助教 産科)
 - 甲田 訓子 (助教 産科)
 - 山田真一郎 (助教 産科)
 - 西田 洋平 (助教 産科)
 - 岩本 莉奈 (助教 産科)
 - 伊能 利之 (助教 産科)
- (採用(新規)) 4月1日付
- 宮下 彩 (助教 産科)
 - 森川 雅己 (助教 産科)
 - 柴田 幸成 (助教 産科)
 - 羽鳥 遼 (助教 産科)
 - 金 奈賢 (助教 産科)
 - 高坂 怜子 (助教 産科)
 - 野上 琴代 (助教 産科)
 - 古屋 智紀 (助教 産科)
 - 郭 子揚 (助教 産科)
 - 植野 裕司 (助教 産科)
 - 船岡 俊介 (助教 産科)
 - 堀江 貴裕 (助教 産科)
 - 小口 直人 (助教 産科)
 - 黄 晨宇 (助教 産科)
 - 宮澤 美咲 (助教 産科)
 - 小野 藻瑚 (助教 産科)
 - 河村 裕太 (助教 産科)
 - 佐々木 悠平 (助教 産科)
 - 牧田 将和 (助教 産科)
 - 文 竹 (助教 産科)
 - 祁 君容 (助教 産科)
- (採用) 4月1日付
- 松川 純平 (診療助手 産科)
 - 木家哲之介 (診療助手 産科)
 - 川尻 紋子 (診療助手 産科)
 - 廖 秉承 (診療助手 産科)
 - 洪 鈺綺 (診療助手 産科)
- (採用(更新)) 4月1日付
- 岩崎 拓也 (助教 産科)
 - 原 美音 (助教 産科)
 - 小山 尚人 (助教 産科)
 - 三枝 聡美 (助教 産科)
 - 橋本 大太郎 (助教 産科)
 - 堀内 竜太郎 (助教 産科)
 - 根津 英之 (助教 産科)
 - 中野 翔太郎 (助教 産科)
 - 土居 洋介 (助教 産科)
 - 宮脇 理功 (助教 産科)
 - 吉田 美加 (助教 産科)
 - 杉本 万緒 (助教 産科)
 - 張 璐瑶 (助教 産科)
 - 保科 沙夏 (助教 産科)
 - 鈴木 聡平 (助教 産科)
 - 林 昶廷 (助教 産科)
- (採用) 4月1日付
- 研修歯科医23名(氏名・所属は省略)
 - 出野 美穂 (事務員 産科)
 - 新井つゆの (事務員 産科)
 - 小松ほなみ (事務員 産科)
 - 坂岩 未来 (事務員 産科)
 - 坂井 歩 (事務員 産科)
 - 谷内 秀寿 (事務員 産科)
 - 召田 三博 (事務員 産科)
 - 筈原 哲三 (事務員 産科)
 - 野澤 良子 (事務員 産科)
 - 保科 芳子 (事務員 産科)
 - 中村 良二 (事務員 産科)
 - 萩村 博文 (事務員 産科)
 - 召田 仁子 (事務員 産科)
 - 田中加緒里 (事務員 産科)
 - 横山 幸代 (事務員 産科)
 - 小倉 英文 (事務員 産科)
 - 須澤 秀雄 (事務員 産科)
 - 野本 享嗣 (事務員 産科)
 - 丸山 雅久 (事務員 産科)
 - 中野 唯人 (事務員 産科)
 - 長島 規夫 (事務員 産科)
 - 奥原 徳子 (事務員 産科)
 - 小澤 博 (事務員 産科)
 - 宮嶋 秀明 (事務員 産科)
 - 一ノ瀬 浩子 (事務員 産科)
 - 竹内 由里 (事務員 産科)
 - 塩原 則子 (事務員 産科)

Matsumoto Dental University SNS Information

LINE QR Code

twitter QR Code

Instagram QR Code

facebook QR Code

5月行事予定

14日(火) 1期試験 第6学年

19日(日) 一日体験入学 (歯学部)

29日(水) 大学院発表会

(昇任) 4月1日付

- 佐藤 晶 (准教授 産科)
- 大場 有記 (事務局 産科)
- 白澤 幸恵 (副主査 産科)

(昇任・配置換・兼務) 4月1日付

- 山口 葉子 (准教授 産科)
- 川原 良美 (教授 産科)
- 中村美どり (教授 産科)
- 田所 治 (教授 産科)
- 安藤 宏 (教授 産科)
- 花岡 平司 (薬局薬剤師 産科)
- 汲田 ちえ (産科)
- 原田 寿久 (事務局 産科)
- 一ノ瀬 敦博 (事務局 産科)
- 吉江みはる (事務局 産科)

(昇任・兼務) 4月1日付

- 長瀬 昭子 (主任技師 産科)
- 青柳 英治 (事務局 産科)
- 宮戸ひとみ (事務局 産科)
- 中澤 里美 (外來看護師 産科)
- 金銅 英二 (学務 産科)
- 島田 陽子 (産科)
- 杉浦 雅之 (事務局 産科)
- 齊藤真由子 (産科)
- 永田美沙緒 (産科)

受験生の皆さんへ

一日体験入学

① 5月19日(日)

② 6月16日(日)

※ 5、6月開催分のみ掲載

開催時間 9:30~15:00 (受付 9:00~)

●キャンパスツアー ●ランチ体験

●模擬実習 ●入試説明・進学相談 など

※ 参加希望の方は、本学ホームページまたは電話にてお申し込みください。

お問い合わせ

HOT LINE 0263-54-3210

松本歯科大学 入試広報室

www.mdu.ac.jp